

平成23年度 唐津市立加唐小中学校 学校評価計画

1 学校教育目標

【本校の永遠のめあて⇒<㊟ 強い体 ㊟ ぱりぱり勉強 ㊟ きちんと挨拶>】
 基礎・基本の学力を身に付け、他人を思いやる優しい心を持ち、自主自立したたくましい児童生徒の育成

2 学校経営ビジョン

- <明るく 元気で 活力ある学校づくり>
 1 すべての児童生徒に確かな学力を定着させ、学力向上を図る。
 2 健康な体と豊かな心を持ち、主体的に活動する児童生徒の育成を図る。
 3 地域・保護者に信頼される学校づくりに努める。

3 本年度の重点目標

- ①<知> わかりやすい授業づくりに努め、確かな学力の定着を図る。
 ②<徳> 思いやりの心をもつ児童・生徒の育成を図る。
 ③<体> 児童・生徒の健康保持増進と体力向上を図る。

4 前年度の成果と課題

<成果> 学校目標「つばき」は、ほぼ周知できている。情報の発信についても概ね良好である。本年度新たに取り組んだICTを活用した授業実践もすべての学級で行うことができた。
 <課題> 保護者へのアンケートでは、あいさつについては若干向上したものの、まだ十分とは言えない状況である。また、家庭学習への取り組みやキャリア教育についても、実践は行っているものの、児童生徒や保護者の意識としてまだ十分とは言えない。

5 総括表

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○学校経営方針	学校教育目標及び学校経営ビジョン、本年度の重点目標の周知	(以下に使うポイントとは達成率を表し、最高点を4にしたものである) 教職員、児童生徒、保護者への周知を図る。周知率を3.5ポイント以上にする。	各種便りや学校行事、育友会総会、教育講演会、保護者会などを活用して広報活動を行う。
	○開かれた学校づくり	地域の方々の学校行事などへの参加促進	・学校行事や学校公開週間などの来校者を延べ250名以上にする。 ・「授業参観や情報交換の機会がある」とする保護者の回答率を3.5ポイント以上にする。	・授業参観日等に価値ある学校行事を設定する。 ・学校行事だけでなく授業や挨拶などに関するアンケートを実施し改善を図る。 ・地域の方々と子どもたちが交流する機会を充実させる。
		学校情報の発信	各種便りやホームページなどを通して「学校の様子がわかる」とする保護者の回答率を3.2ポイント以上にする。	・各種便り(学校、学級、保健、図書、部活など)や掲示板、ホームページ等に最新の情報を掲載し、学校行事のにおりに広報活動を行う。 ・学校の携帯サイトで学校の情報を発信する。
	○教職員の資質向上	実質的な校内研修の充実	授業提案や授業参観、授業研究会を通して指導力向上に努める。	・校内研究のテーマに沿った研究授業を全員1回行う。 ・全職員がセンター研修講座や研究発表会への参加を推進する。
教育活動	●学力向上	指導方法の工夫改善	・「授業がわかる」児童生徒の回答率を3.2ポイント以上にする。	・わかりやすい授業づくりに努め、小規模校のメリットを生かして個に応じた学習活動を行う。 ・ICTを活用した授業実践を通して指導法の改善を図る。
		ことばの力の定着	・「本に親しむことができた」と回答する児童生徒を3.2ポイント以上にする。	・文化委員に企画させ、小学校の読書タイムや中学校の読書週間の充実を図る。 ・図書便りを定期的に発行する。 ・合同スピーチではありがとうカードを書く時間を確保し、感想交流の時間を充実させ、活発な意見交流ができるように支援する。
		家庭学習習慣の定着	・毎日の家庭学習時間(小学校→低20～30分、中30～50分、高50～60分、中学校→1～3時間)を確保させる。 ・「ながら勉強をしていない」とする児童生徒の回答率を3.2ポイント以上にする。	・毎日の家庭学習調査の集計表の結果を個別指導に生かす。 ・家庭学習の手引を作成、配布し、家庭学習習慣の定着を図る。

教育活動	●心の教育	全教育活動における道徳教育の実践	人権・同和教育の視点に立って、道徳の時間を充実させ、思いやりのある児童生徒の育成に努める。	・ふれあい道徳の時間を設定し、自他尊重のスキルを行う。 ・道徳の授業のほかにも、小学校でのじんけんタイム、まっタイムや中学校での集会を実施し、人権・同和教育の充実を図る。
	○生徒指導の充実	よりよい校風づくり	礼儀やマナーをわきまえた言動ができる児童生徒の育成に努める (あいさつ・返事・話の聴き方・姿勢等)	・小学校…『つ・ば・き』のきちんと挨拶を徹底し、気持のよい受け答えができる児童を目指す。 ・中学校…校外学習活動等でははっきりとした受け答え、気持のよい接し方を目指す。
		基本的な生活習慣	時間だけでなく、服装や早寝・早起き・朝ごはん等、他の観点にも着目して基本的な生活習慣の確立に取り組む。	・小中とも毎月の生活の話を中心に、各学級での指導や児童生徒への個別指導を取り入れ、基本的な生活習慣の確立を図る。
	●健康・体づくり	食事マナーの定着	食事のマナーに気をつけて食べたと答える児童・生徒の回答率を3.3ポイント以上にする。	全教職員で共通理解を図り、ランチルームや学級活動で、児童・生徒に食事のマナーについての指導を行う。
		継続した体づくり	・週5日以上、20分程度の運動を継続したと答える児童・生徒の回答率を3.3ポイント以上にする。	・児童・生徒へ運動を呼びかける。
特定課題	●小学校低学年の学習環境の改善充実	小学校低学年の基本的な生活習慣・学習習慣の育成	「先生や友だちの話を聞く」「きちんとあいさつをする」「きちんと話す」を徹底させる。	授業だけでなく朝の会、帰りの会なども活用して指導を徹底する。教師間の連携や家庭との連携を密にした指導を行う。
	○ICTの有効活用	ICTを活用した授業改善と校務の情報化	・ICTを活用した授業を積極的に行うとともに、児童生徒も一人一回は自ら作成したプレゼンテーションを活用した発表を行う。	・ICTの授業活用に関する職員研修を計画的におこない、職員の情報活用能力の向上を図る。 ・スピーチタイムや各教科の発表時間に利用するプレゼンテーションについて、総合的な学習の時間等を活用して作成指導を行う。
	○「最後に頼るべき自己」の確立	《小5～中3》 現実的意思決定能力の向上	「将来の夢に向けて、自分のやりたいことややるべきことを考え実践する」児童生徒の回答率を3.2ポイント以上にする。	中学生は職業講話や職場体験及びその発表会を行い、職業講話には小学5・6年生も参加させる。
《小1～小4》 将来の自己像のイメージ化		「大人になってなりたいものがある。」という児童の回答率を3.2ポイント以上にする。	社会科見学の折に、職業観を視点のひとつに入れて見学させる。	

●は共通評価項目、○は独自評価項目